



NPO法人 大磯ガイド協会

# 照ヶ崎

第58号  
令和6年8月1日

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯995-12-B  
TEL 0463-73-8590 FAX 0463-73-8591  
ホームページ <https://www.oisoguide.com>



## 潮風に包まれた大磯の記憶

大磯町商工会会長 芦川 博昭

### ——私の幼少期と町の温もり——

昭和37年(1962)、大磯の海沿い「南下町」にて酒店を営む家に私は生まれました。朝夕に潮の香りが届く漁師町で、幼少期には照ヶ崎海岸で魚を獲ったり、海に入って遊んだり、大磯に海水浴場を開いた松本順先生の謝恩碑によじ登ったりして(今考えると罰当たりですね！真似しないでください)、伸び伸びと育ったのです。



もちろん友達もたくさんいて、その頃のエピソードは宝物のように、今も記憶の中で輝いています。小学生の低学年で同級だった「宮沢くん」もその友達のひとりで、彼は住友財閥のご子息でした。大磯は海辺の町であると同時に、明治財界の奥座敷とも呼ばれる別荘地でもあり、中には子どもさんを地域の学校に通わせるお宅もありました。住友の邸宅へ通っていたお手伝いさんが私の家の近所だったというご縁もあり親しくなったのです。宮沢くんは

とても面倒見のいい人柄で、クラスで内向的だった別の同級生が学校の屋上で自ら金網を越えてしまって周囲が騒然となった時にも、彼が冷静に、優しく、根気よく声をかけて相手の心を開き、安全な場所へ導くことができました。小学生ながら、まさに財閥家の名に恥じない尊敬に値する行動で、この事は子どもだった私の脳裏に深く焼きつき、その後の人間形成に大きな影響を与えることになります。また、1月の七草の頃には、左義長(国指定重要無形民俗文化財)のサイトを組むため、お飾りや門松集めのために、下町の子どもは山の手(大磯の別荘地)へ出かけて行きます。私たちがインターホンを押してお手伝いさんに声をかけると、中から奥様も出てこられて「ご苦労様」とお菓子やお年玉を手渡ししてくれて、お飾りを積んだリヤカーが見えなくなるまで「気を付けるのよ！」と手を振って見送ってくれました。そんな人々が持つ優しさ温かさに触れ、私は大人になっても大磯を離れる事ができなくなりました。下町の「芦川酒店」店主として、大磯町商工会会長として、また左義長保存会のメンバーとして、これからも大磯を愛し続け、皆さんと一緒に大磯を育てていきたいと考えています。

### ——今後の企画ガイド他予定——

No.	月日	企画ガイド(略称)	No.	月日	企画ガイド(略称)
1	8/24(土)	研修旅行(坐漁荘・岸邸)	4	10/12(土)	※共催 安田邸と寿楽園
2	9/14(土)・17(火)	頼朝ゆかりの鎌倉道	5	11/10(日)・12(火)	アドベンチャー・ハイキング
3	10/3(木)・5(土)	大地の誕生の秘密	6	11/30(土)	※共催 城山庵でお点前

## 活動報告 令和6年5月～令和6年7月

### ——企画ガイド「相模国府祭を訪ねる」——

5月5日(日・祝) お客様66名 ガイド12名

薫風の中、相模国の六社(総社六所神社、一之宮寒川神社、二之宮川勾神社、三之宮比々多神社、四之宮前鳥神社、一國一社平塚八幡宮)が一同に会する相模国「国府祭(こうのまち)」が大磯で開催されました。国府祭は、1300年ほど前、奈良・平安の頃、相模国の行政長にあたる国司が天下泰平と五穀豊穡を神に祈ったのが始まりといわれており、全国的にも珍しい祭典です。

午前9時過ぎ10名のお客様と六所神社を出発し、祭ゆかりの神社仏閣を参拝。途中、前鳥神社の「麦振舞神事」で麦飯を賜り、お客様にも神事を体験して頂いた。その後正午に行われる、ハイライトの一つである神揃山での「座問答」に案内しました。これは、相武(さがむ)と磯長(しなが)が合併し、相模国の一之宮を争った模様を儀式化したものといわれています。ガイドの終了後、午後にもう一つの見所の逢親場で執り行われる「鷺の舞」や「神対面」等の神事について説明しました。伝統、歴史ある祭に触れ、学び楽しんで頂けたと思います。「千早振る神と待ち合う国府祭」でした。企画ガイドのデビューは冷や汗かきかきでしたが、先輩ガイドのフォローもあり無事終了しました。(徳永 彰)



座問答の神事

### ——企画ガイド「オープンガーデン バラのお庭と苔玉づくり」——

5月12日(日) お客様31名 ガイド6名



苔玉づくりの風景

始まりは定例会でのむちゃぶりでした。「体験型のツアーを大磯オープンガーデンで? 楽しそう!」「苔玉? してみたい!」その場で3人が意気投合。甘い言葉で初心者をついに勧誘し苔玉部を結成、準備に入りました。苔玉作りを数回重ね、先輩方や近隣の方々に実験台になって頂きました。皆様の表情を拝見しご意見を伺い、不安材料を少なくすることで自信を積み重ねて参りました。募集の広告が出た途端、満席になり1コース増設したことは喜びでもあり驚きと責任感で身が引き締まる思いでした。

当日は比較的涼しく絶好の苔玉日和でした。お客様に駅周辺のバラの美しいお庭を楽しんで頂き、講師の指導のもと「世界に一つしかない苔玉」を作りました。

た。選んだ苗を土のお団子に植え込み水苔を巻くまでがヤマ場です。それを越えればあとは手の中で出来上がっていく可愛い苔玉の姿が皆様を笑顔にしてくれます。「楽しかった」「また企画してほしい」そんな声が耳に届き肩の力がずっと抜けました。

お客様、ご協力いただいた皆様、若いメンバーを見守ってくださった皆様、講師、苔玉部員の皆様に心より感謝いたします。お客様のお手元の苔玉、元気に育っているかな・・・願わくは様子、お声を聞かせていただきたいです。

(野々山

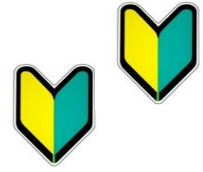
直子)



出来上がり作品

## ——— 新人ガイド 奮闘記 ———

☆2023年度入会の新入会員は一年間の研修を修了し、4月より11名のガイドがデビューしました。早速、旧吉田邸常駐ガイドやバスツアーのガイドとして、スタートしています。



### 【常駐ガイドを担当】

5月19日(日)

県立大磯城山公園「旧吉田茂邸地区」の常駐ガイドとして、初めてお客様をご案内したこの日は、朝から雨がポツリポツリと降る日曜日でした。一時雨が止んだお昼近く、東京から来られた男女お二人と庭園を巡りました。ご案内の40分間はあっという間で、続けて見学される旧吉田邸の玄関で笑顔のお客様をお見送りし、ホッとすると同時に「もっと色々ご説明できたのではないかと反省ばかりでした。そんな私に、先輩ガイドは「知識の10分の1を伝えられれば十分」と励ましてくださいました。

お客様には、また何度もこの旧吉田茂邸を訪れていただけるように、そして季節ごとの大磯の魅力、お客様のニーズに合わせたご案内ができるように、今後も知識の引き出しを増やしていきたいと思います。(吉田 昌美)

### 【バスツアーのご案内】

6月26日(水) お客様18名 ガイド2名

一年間の新人研修を経て今年4月から旧吉田茂邸でデビュー。今回は初めてバスツアーのお客様を案内しました。この日は、日中気温30℃あり、それも踏まえて事前確認と打合せ。特に安全第一で楽しんでもらうことを心がけてスタートしました。ツアーの旅程上、ガイド時間は、庭園、邸内合わせて1時間とする制約があります。私の担当した班は、庭園を先にご案内してから邸内に入るルートでご案内。まずはバラ園から。今年バラが長く鑑賞できたようで当たり年？6月下旬ながら写真撮影して喜んでいただけました。散策中の安全に気を付けて日陰を利用し、説明は簡潔に！と心がけ、兜門、心字池、七賢堂、銅像と巡り、約30分で終えて邸内へ。涼しい邸内ではこれまでに学んだ内容から、各部屋の案内板もフル活用して無事終了。お客様から「有難う」のお言葉を頂き、ホッと安堵しつつ、バスをお見送り。

今日のツアーはスケジュール通りに進み、天候を含めて初心者の私にとっては恵まれたデビューとなりました。この経験を糧にさらに良いガイドができるようにしていきたいと思います。(藤原 圭二)

## ——— 会員研修「わかりやすい話し方 講習会」 ———

6月30日(土) 参加者54名

湘南ケーブルネットワークアナウンサーの村上実樹さんによる「わかりやすい話し方」の講演がおこなわれた。

伝える力を向上させるには、言葉選びを大切に相手に分かりやすく。センテンスは短く15秒を目安。非言語的コミュニケーション、表情・ジェスチャー・視線・身だしなみ・口調・声色に配慮する。印象の良い声を得るには「呼吸」「発声」「滑舌」「アクセント」が4つの鍵である。

実際に個々に声を出して文章を読む、話し方トレーニング。舌の筋肉の衰えが活舌の悪さにつながり、舌を滑らかに動かす練習も。そして最も大切なのは、コミュニケーションと思いやりとの事。

実地指導を頂き新たな気づきも多く、今日の経験を今後のガイド活動に活かしたい。(梅田 久美子)



講習会の様子

### Ⅲ 結城合戦から享徳の乱まで

足利持氏が幕府や関東管領に敗れた「永享の乱」の2年後、空席となった鎌倉公方に第6代将軍・足利義教(よしのり)は、実子を下向させようとした。しかし、永享12年(1440)3月、持氏の残党や、鎌倉公方の家臣・小田原城主の大森憲頼と、下総国結城城主の結城氏朝らが、自害した持氏の遺児たちを擁立して、幕府に対して反乱を起こした。これが「結城合戦」である。

幕府は相模国の防衛のため、上杉憲実の弟・持朝を平塚徳延に、駿河守護の今川範忠を平塚八幡に布陣させた。高麗山は双方の勢力の戦略的な立地だった。結局、反乱軍は下総国結城城に籠城の末降伏し、結城氏朝は討ち死にした。なお、『里見八犬伝』は、結城方で父親と一緒に戦った里見義実が、死を覚悟した父親と別れて落ち延びるところから始まる。

持氏の遺児たち春王丸、安王丸、永寿王丸は捕えられて京都への護送の途中、嘉吉元年(1441)5月、相模川を渡り



古河公方館址

大磯を通過したが、春王丸と安王丸は美濃国垂井で処刑された。永寿王丸は4歳だったこともあり、父親の持氏の旧臣で信濃国佐久の大井城主・大井持光の庇護のもとで成長した。

「結城合戦」の翌年、戦勝祝いの席上で第6代将軍・足利義教が、重臣の播磨守護・赤松満裕に殺害されるという「嘉吉の乱」が起った。そののち関東府再興の動きが主な守護を中心に持ち上がり、新しい関東公方に永寿王丸が元服して足利成氏(しげうじ)として鎌倉に帰還した。未だ年若い成氏は、持氏旧臣側と、持氏を殺害した側の、相反する人々の間に置かれることになった。新しい鎌倉府では鎌倉公方に成氏、その補佐役の関東管

領に上杉憲忠が就任した。憲忠は「永享の乱」で持氏を自害に追い込んだ関東管領の上杉憲実の嫡男である。

享徳3年(1454)、第5代鎌倉公方の足利成氏が、関東管領の上杉憲忠を、鎌倉の西御門にある御所に呼び寄せて謀殺、「享徳の乱」が勃発した。怒った関東管領上杉方は、室町幕府を頼って後ろ盾とした。将軍足利義政は、上杉方の要請に応える形で、関東近郊の諸大名に成氏討伐を命じた。その主力の一角が駿河守護の今川範忠と義忠の父子だった。翌年6月、今川勢は、成氏が遠征している隙を突き鎌倉を制圧。そのため成氏は鎌倉に帰ることができなくなり、やむなく支配下にあった下総の古河に逃れ、以後、「古河公方」と称された。

幕府は成氏に代わって新たな鎌倉公方を立てるべく、足利義政の異母兄の足利政知を鎌倉公方として下向させたが、関東の豪族たちは、幕府の勢力が弱まった事を喜んでいて矢先であったため、鎌倉へは入れなかった。やむなく伊豆国堀越に留まり、ここを御所としたため、「堀越公方」と称された。

古河公方及び関東の豪族と、堀越公方及び関東管領山内(やまのうち)上杉氏・扇谷(おおきがやつ)上杉氏が、関東を二分して28年間戦い続けた「享徳の乱」、文明14年(1482)和睦によって終結した。今回は、山内上杉氏の家宰の相続を巡って、長尾景春が蜂起した「長尾景春の乱」を採り上げる。(つづく)

【編集後記】 巻頭では、5月の定時総会でご挨拶頂いた芦川商工会会長に寄稿して頂きました。改めて厚く御礼申し上げます。大磯ならではの人の温もりに触れることができ、私たちも日頃の活動を通じて、大磯を訪れる方々に、今にまで残る人の縁と暖かさを少しでもお伝えできたらと思います。定番となっている「国府祭」や「オープンガーデン」のガイドでは、苔玉づくりなど新たな視点を取り入れた取組みも進んでいます。また、閑散期のこの夏には「分かりやすい話し方」や「救急法」などの研修に力を注ぎ、秋の行楽シーズンに向けて、意欲溢れる新人ガイドともども会員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。(磯川 寛光)